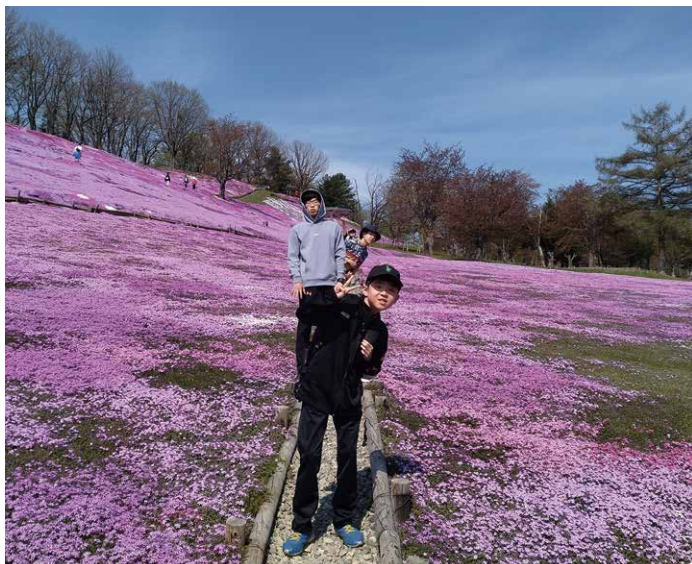


一隅を照らす

社会福祉法人
北光福祉会
会報

2024. 夏
第10号



遠軽 太陽の丘公園にて（ひまわり学園）



サイクリング（北光学園）



網走でサクランボ狩り（向陽園）



津別 シゲチャンランドにて（パオ）

一隅を照らす 第10号

2024・夏 主な内容

- 5年ぶりのひまわり学園 湯浅 民子 …………… P 2
- 令和5年度事業報告の概要 …………… P 4
- 令和5年度貸借対照表 / 資金収支決算書 …………… P 5
事業活動収支決算書
- 令和6年度事業計画の概要 …………… P 6
- 令和6年度新任職員紹介 …………… P 7
- 令和6年度各施設・事業所から
 - ・子どもが自分は大切にされていると思えるような施設 堤 茂樹…………… P 8
 - ・子どもの最善の利益を求めて 成田 朋美…………… P 8
 - ・活動が楽しめるように 小林 由美…………… P 9
 - ・地域生活支援パオからのお詫びとご報告…………… P 9

- 5年ぶりの法人内研修会 米内山 仁 …………… P10
- 向陽園アート活動の紹介 千葉 理人 …………… P11
- 堀先生を囲んだ研修会 …………… P12
- Fさん兄弟の後見人となって 張江紀代美 …………… P12
- 夏の三題
 - ・久しぶりの音楽演奏会 …………… P13
 - ・北見トヨペットと社員からのプレゼント…………… P13
 - ・ハスカップの手入れ …………… P13
- ご芳志のご報告と御礼 …………… P14
- 後援会だより …………… P15
- お薦めの本 / お悔み …………… P16
- あとがき …………… P16



五年ぶりのひまわり学園

社会福祉法人北光福祉会 理事長 湯浅 民子

平成最後の年、三十一年三月末をもって長く務めてきたひまわり学園の園長の職を辞してから、五年の歳月が流れました。同じ年に理事長を仰せつかり、法人本部がひまわり学園内にあるところから、週のうち半分くらいは出勤して法人の業務を行ってきました。

現場を離れたさびしさにも慣れ、二十四時間、電話の音に神経をとがらせていなくともよい安穩さに慣れてきていたところに、再びひまわり学園長の職がめぐってきて、この四月に就任いたしました。

挨拶まわりに行った先々で、「それはご苦労さまですね〜」

と、いささか同情の混じった言葉をかけられました。高齢になって現場責任者に戻ることの大変さをねぎらってくれているのです。

きっかけは、千田ひまわり学園前園長が、こどもに関する国の機関へ、二年という期限付きで勤め

ることになったことでした。

後任を考えましたが、二年という長さが何とも半端なのでした。内部登用するにも、二年前に若手登用の大幅な異動を行ったばかりで、その体制がようやく緒に就いてきたところでした。

方策が見つからないでいたとき、私の再登板を望む声がひまわり学園内部から上がりました。

敷地内に住み、週の半分は出勤してきているのです。二年という期間を、流れを変えることなくつなぐには、確かに最適と言えるのでした。

かくして引き受ける覚悟を決めた私でしたが、若い時分から、先行きの困難を承知で進んでしまうところが、未だ健在だったのかと我ながらあきれていました。同じく学園に出勤してきても、理事長と園長では大違いなのです。児童福祉施設の新学期は、忙し

い。入所・退所、入学、異動等々、変化の連続で、止まっていけないのが子どもの施設なのです。その傍ら、法人運営の大役もあります。

最初の一週間は、帰宅するどぐつたりしていました。それでも徐々に感覚が戻ってきました。

何と言っても職員はかつての間あるいは自分が採用した人たちであり、気心が知れています。その職員の人間関係が、なごやかでとても良いのです。

子どもたちは五年の間に成長し、半数近くが入れ替わっていました。けれども、全体的に落ち着いて、おだやかに過ごしているところが意外なことでした。

五年の年月の長さ、前任の園長や職員が守り、築いてくれたものに、感謝が湧きました。

*

平成の最後の年は、相次いだ災害などで世情が不安定でした。

その影響を受けたかのように、不穏さを抱えて入所してくる子どもがいました。思春期のただ中というところもあるのですが、しばしば暴力でもって不満を解消しよう

とするのです。収まるまで園全体が恐慌状態に陥り、他の子どもたちや職員の安全面や心理面にも大きな影響を及ぼしました。

対応を児童相談所に相談したところ、かけつけるのに一時間かかるので緊急の場合は警察に応援要請してほしい、と言われました。

それまでも警察や消防のお世話になることはありましたが、交通事故や無断外出などで捜索する場面に限られていて、子どもの暴力という前例はありませんでした。しかし、実際その後、警察のお世話になることがあったのです。

児童福祉施設であるひまわり学園は、子どもの安全と福祉を守る場所です。しかし、こんな状態が続く中で、果たしてこの先、施設を続けて行かれるのか……。私は不安にとらわれました。

そんなとき、一つの出会いがありました。CSP（コモンセンスペアレンティング）という技法の普及に取り組んでおられる堀健一先生です。先生は、ご自分の体験をこんな風に語られました。

―大阪で児童心理治療施設を運営していたが、子どもが荒れて、継

続していくことに不安を覚えていた。打開策を求めてアメリカに行き、CSPの技法を知ってそれを学び、取り入れたことで、子どもも職員も変わることができた。

これだ！、と思いました。

ぜひ取り入れたいという支援課の強い希望と、札幌の麦の子会の協力があり、令和元年から本格的な導入を開始したのです。

それから丸五年、後任の園長と職員は、学園にしっかりとCSPを根付かせてくれたのです。そしてその成果が表れ、子どもたちがどこか満足し、落ち着いて生活する現在の姿があるのです。

*

CSPとは、「子どもの問題行動を減らして望ましい行動を増やすための育児の方法を、大人がしっかり身につけるプログラム」のことを言います。相手を「ほめる」ことで、良い面を伸ばすことが重要なキーワードになっています。

1917年、アメリカのフラナガン神父が、非行に走る青少年のために自治による共同体生活を中心とした「少年の町ボーイズタ

ウン」を創設したことに始まっています。終戦後の1971年には、マツカーサー元帥が、戦災孤児の対策のために神父を日本に招聘し、児童の福祉を通して敗戦で打ちひしがれていた日本人へ多大の影響を与え、善意の種を植えられた、と言われています。

それもこれも、遠い話と想っていた私でしたが、創設七十周年を迎えようとしている法人の歴史を辿っていたとき、思いもかけず神父の名前と出会ったのです。

当法人は、昭和二十七年に湯浅文治・操夫婦によって創設されたのですが、開設時の園舎は、非行少年のために建てられた「北光園」という少年院の土地・建物を利用したものでした。

この建物は、棚橋軍治氏が、フラナガン神父の思想に共鳴し、この地に「少年の町」を作ろうと思いついて私費でもって建てたものだったのです。棚橋氏の夢は一年余りで潰えてしまうのですが、その土地・建物等を譲り受けて北光学園が開園され、ひまわり学園、向陽園とつながってきたのです。

百年以上も前に神父の説かれた精神が、長い時を超えて、今のひまわり学園に息づいているのです。何者かの意志や、縁を感じさせられることでした。

この流れを、園長として守り抜かなければと思います。

*

コロナ禍の五年の間にはまた、失ったものも大きいと感じます。

ひまわり学園が開園されて五十五年が経ちます。障害への理解が乏しく、孤立無援の状況で開園されてから、さまざまな機関とつながり、世界を広げること努力を重ねてきました。保護者や他事業所と一緒の行事、学校と一緒の運動会、資金集めのバザー、地域と一緒のお祭りなどなど。それらが障害者の生きる場所を広げることにつながると信じてきました。

この五年間、それらのことごとくが自粛という言葉の下に中断されてきたのです。その状態が五年も続くと、意義も薄れてしまい、元に戻すのは困難なものでした。

それは人とのつながりにも言えます。同じ法人内でありながら、

お互いが見えづらくなり、共感や共有する部分が薄れてしまっているのです。

自分の持ち場を守ることは基本であり、大切なことですが、他は関係ないということではありません。同じ仲間として、何かの時は支え合い、足らざるを補い、信頼し合っていかなければならないのです。

それやこれや、コロナ禍が去った後に再構築して行かなければならないことも多いのです。

八月末、講師としてこられた堀先生と六年ぶりに再会しました。

前園長が国の機関に移り、再登板したことをやや愚痴っぽく語る私に、先生はこう言われました。

「国の恩に報いることは、大事なことです」

「オン？ 報恩の恩ですか？」
「そうです。国や地域のために力を尽くすことも大切なのです。法人は今、恩に報いているのです」。

忘れかけていた言葉でした。或いはこの二年間は、恩に報いるためにあるのかも知れません。

どうかまた、よろしくお願いたします。(了)



令和五年度 事業報告の概要

当法人は、児童と障害者を対象にした次の事業を運営しています。障害福祉関係は、短期入所や日中一時事業を実施しています。

- ・入所施設：三ヶ所（児童養護施設、障害児入所施設、障害者支援施設）
 - ・障害者グループホーム：十五ヶ所
 - ・生活介護事業所：四ヶ所
 - ・就労支援事業所：二カ所
 - ・児童通所事業所：三ヶ所
 - ・相談支援事業：二カ所（児童家庭支援センター、障害者相談支援事業）
 - ・居宅介護事業：一ヶ所
- 事業は遠軽町で展開していますが、児童通所については、湧別町、佐呂間町でも行っています。

このほか、地域での公益的な取り組みも、全ての施設と事業所で行いました。長く活動を制限してきた新型コロナウイルスも令和5年春から5類感染症に扱いが変わり、令和5年度はこれまで自粛してきた活動を再開させ、変化や喜びの多い生活の実現に努めました。ひまわり学園では4年ぶりになるクリスマスパーティを開催しました。三点の重点事項、その他事業の実

施状況は次のとおりです。

1 事業内容の見直し

ひまわり学園の入所定員を四十六人から四十人に減員し、一ユニット当たりの人数を、六人から七人にし、手厚く関わられるようにしました。

サン・コロナについては、新たに始めた「ごえんやき」も業績改善につながらず、小豆の栽培やハスカップの植樹など、新たな模索を行いました。

2 人事交流・職員待遇の改善

向陽園や障害福祉事業の一般職を中心に進めましたが、必ずしもうまくは進まず、地域支援事業を一つにくくるパオの運営体制に課題を残しました。職員待遇の改善では、給料表等の改定、処遇改善加算の支給を行いました。職員の確保は、年間を通して五名に止まり、必要数確保できないまま年度を終えることになりました。

3 研修・委員会活動の充実

第三者委員参加の苦情対応研修会、新任・中堅職員対象のやりがい研修会、三月には、全役職員対象の法人内研修会を5年ぶりに行うことができ、研修や情報交換、交流などの成果を上げることができました。

その他主な事業は、次のとおりです。

○会議の開催

令和五年度は九回の理事会を開催し、協議しながら事業の実施に当たり

ました。評議員会は一回開催しました。その他、経営会議を十一回開催し、運営にかかる諸事項を協議しました。

○監査の実施

監事による業務・財務監査を年四回実施しました。児童と利用者合わせて二〇三人の個人金監査も、年四回実施しました。その他、板垣洋公認会計士による監査指導を二回行いました。

内部監査委員会は、ゆめいく、遊友やすくに、向陽園の各事業所の監査を行いました。

十一月には、オホーツク総合振興局の指導監査が行われ、施設障害福祉サービス計画の作成、個別支援計画の作成など、3件の文書指導があり、改善報告書を提出いたしました。

○委員会活動

内部監査委員会など十一の委員会を設け、目的に沿って、検討作業や事業を行いました。衛生推進委員会の活動を令和六年度からスターとさせることができました。

○規程の変更

・ひまわり学園運営規程
入所定員変更の変更を伴う変更。
・就業規則の変更

重点事項2のとおり、公務員に準じた給料表及び期末勤勉手当支給率の変更、処遇改善特例交付金に対応した調整手当等や特別手当を支給し

ました。

○苦情処理の状況

秋には恒例の第三者委員による個別面談を、全入所児童と利用者について実施。大きな課題はありませんでした。

○固定資産の状況

向陽園横の公営受託の敷地跡地（千四百坪）を、町から無償譲渡受けました。

○ひまわり学園地域交流棟の改修工事

ひまわり学園地域交流棟の児童通園活動スペース、宿泊室等の改修工事を二回に分けて実施しました。

○マイクロバス購入及び車庫の設置

北光学園で二十六人乗りマイクロバス一台、車庫一棟を設置しました。

○会報の発行

「一隅を照らす」を年二回発行。事業の報告と情報公開を行いました。

○表彰の実施

次の永年勤続職員表彰を行いました。
代表して大杉潔が謝辞を述べました。
三十年：大杉潔、瀧口紀子

二十年：藤井康成、千田綾香、斎藤昌司、菊池里奈、佐藤昌生

十五年：村川弘美、有倉りよ子

十年：名雪美加、土田貴大、清永将史、丸山信二、平井健人、東梅

知紀、浅野朋子、釜澤千秋、飛澤文子、中津一雄、安立加代子、佐藤

ゆかり、井上華江美



謝辞を述べる大杉副管理者

○会計収支決算の状況

令和5年度の会計収支決算の状況は、下表の「貸借対照表」「資金収支計算書」「事業活動計算書」のとおりです。

ひまわり学園は定員変更に伴う単価増で収入が増額した一方で、コロナの影響で収入が大きく減額した事業所がありました。

北光学園には北海道から感染症対策補助金、障害系には物価高騰対策支援金と食材費高騰対策支援金が支給されました。また全施設・事業所に遠軽町から電気料高騰対策支援金と食材料費高騰対策支援金、ぱすてるに湧別町から物価高騰対策支援金くれよんに佐呂間町から運営費補助金をいただくことができました。

遠軽町から債務負担を受けていた北光学園園舎の借入償還が完了しました。

令和5年度 社会福祉法人北光福祉会 貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	646,475,453	598,237,452	48,238,001	流動負債	214,137,332	185,997,535	28,139,797
現金預金	412,794,536	369,091,762	43,702,774	短期運営資金借入金	0	0	0
事業未収金	214,195,641	215,691,217	△ 1,495,576	事業未払金	85,294,318	67,802,856	17,491,462
貯蔵品	73,460	63,000	10,460	1年内返済予定設備資金借入金	36,342,614	41,172,860	△ 4,830,246
商品・製品	1,825,330	2,012,021	△ 186,691	未払費用	12,682,810	5,510,921	7,171,889
原材料	736,332	1,415,175	△ 678,843	預り金	34,380	4,747	29,633
立替金	10,747,464	4,941,058	5,806,406	職員預り金	12,522,070	9,664,860	2,857,210
前払金	2,743,028	2,983,766	△ 240,738	前受金	8,463,000	8,463,000	0
短期貸付金	0	0	0	仮受金	11,328,140	6,598,291	4,729,849
仮払金	3,359,662	2,039,453	1,320,209	賞与引当金	47,470,000	46,780,000	690,000
固定資産	1,922,941,188	1,926,334,636	△ 3,393,448	固定負債	451,951,652	471,052,873	△ 19,101,221
基本財産	826,029,860	867,236,498	△ 41,206,638	設備資金借入金	270,109,142	302,404,503	△ 32,295,361
土地	24,410,430	28,501,320	△ 4,090,890	退職給付引当金	181,842,510	168,648,370	13,194,140
建物	801,619,430	838,735,178	△ 37,115,748				
その他の固定資産	1,096,911,328	1,059,098,138	37,813,190				
土地	74,546,735	70,455,845	4,090,890				
建物	477,283,085	506,284,682	△ 29,001,597				
構築物	10,724,620	13,180,552	△ 2,455,932	負債の部合計	666,088,984	657,050,408	9,038,576
機械及び装置	79,224	263,634	△ 184,410				
車輛運搬具	17,957,747	10,129,654	7,828,093				
器具及び備品	27,349,093	23,195,538	4,153,555				
建設仮勘定	11,241,881	11,241,881	0				
権利	147,784	147,784	0				
投資有価証券	36,000	36,000	0				
退職給付引当資産	181,842,510	168,648,370	13,194,140				
その他の積立資産	3,423,006	3,423,004	2				
人件費積立資産	33,400,092	33,400,062	30				
修繕積立資産	84,700,000	58,700,000	26,000,000				
備品等購入積立資産	2,330,000	2,330,000	0				
施設整備等積立資産	171,671,901	157,501,152	14,170,749				
その他の固定資産	177,650	159,980	17,670				
資産の部合計	2,569,416,641	2,524,572,088	44,844,553				
				基本金	205,704,674	205,704,674	0
				国庫補助金等特別積立金	396,023,353	418,699,175	△ 22,675,822
				その他の積立金	295,524,999	255,354,218	40,170,781
				その他の積立金	3,423,006	3,423,004	2
				人件費積立金	33,400,092	33,400,062	30
				修繕積立金	84,700,000	58,700,000	26,000,000
				備品購入等積立金	2,330,000	2,330,000	0
				施設整備等積立金	171,671,901	157,501,152	14,170,749
				次期繰越活動増減差額	1,006,074,631	987,763,613	18,311,018
				(うち当期活動増減差額)	58,481,799	49,223,210	9,258,589
				純資産の部合計	1,903,327,657	1,867,521,680	35,805,977
				負債及び純資産の部合計	2,569,416,641	2,524,572,088	44,844,553

令和5年度 社会福祉法人北光福祉会 事業活動収支決算書

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日 (単位:円)

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
収益			
児童福祉事業収益	526,995,574	491,468,356	35,527,218
就労支援事業収益	9,688,860	12,268,727	△ 2,579,867
障害福祉サービス等事業収益	865,936,188	858,674,663	7,261,525
経常経費寄附金収益	3,328,300	10,388,730	△ 7,060,430
サービス活動収益計(1)	1,405,948,922	1,372,800,476	33,148,446
費用			
人件費	958,150,554	932,898,935	25,251,619
事業費	192,085,184	192,621,137	△ 535,953
事務費	133,561,691	129,961,323	3,600,368
就労支援事業費用	13,420,195	14,991,494	△ 1,571,299
減価償却費	93,729,162	91,040,730	2,688,432
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 23,771,422	△ 23,628,697	△ 142,725
サービス活動費用計(2)	1,367,175,364	1,337,884,922	29,290,442
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	38,773,558	34,915,554	3,858,004
収益			
受取利息配当金収益	15,015	17,240	△ 2,225
その他のサービス活動外収益	12,610,282	7,589,380	5,020,902
サービス活動外収益計(4)	12,625,297	7,606,620	5,018,677
費用			
支払利息	4,669,667	5,220,967	△ 551,300
その他のサービス活動外費用	2,274,042	1,904,245	369,797
サービス活動外費用計(5)	6,943,709	7,125,212	4,467,377
サービス活動増減差額(6) = (4) - (5)	5,681,588	481,408	5,525,180
経常増減差額(7) = (3) + (6)	44,455,146	35,396,962	29,843,967
特別増減の部			
収益			
施設整備等補助金収益	15,592,600	45,766,000	△ 30,173,400
施設整備等寄附金収益	0	300,000	△ 300,000
固定資産売却益	0	121,337	△ 121,337
特別収益計(8)	15,592,600	46,187,337	△ 30,594,737
費用			
固定資産売却損・処分損	470,347	362,089	108,258
国庫補助金等特別積立金積立額	1,095,600	31,999,000	△ 30,903,400
特別費用計(9)	1,565,947	32,361,089	△ 30,795,142
特別増減差額(10) = (8) - (9)	14,026,653	13,826,248	200,405
当期活動増減差額(11) = (7) + (10)	58,481,799	49,223,210	9,258,589
繰越活動増減差額の部			
前期繰越活動増減差額(12)	987,763,613	952,587,461	35,176,152
当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)	1,046,245,412	1,001,810,671	44,434,741
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	3,570,000	44,453,559	△ 40,883,559
その他の積立金積立額(16)	43,740,781	58,500,617	△ 14,759,836
次期繰越活動増減差額(17) = (13) + (14) + (15) - (16)	1,006,074,631	987,763,613	18,311,018

令和5年度 社会福祉法人北光福祉会 資金収支決算書

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日 (単位:円)

勘定科目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A)-(B)
収益			
児童福祉事業収入	523,419,000	526,995,574	△ 3,576,574
就労支援事業収入	10,100,000	9,688,860	411,140
障害福祉サービス等事業収入	850,418,000	865,936,188	△ 15,518,188
経常経費寄附金収入	3,316,000	3,328,300	△ 12,300
受取利息配当金収入	13,000	15,015	△ 2,015
その他の収入	10,909,000	12,601,589	△ 1,692,589
サービス活動収入計(1)	1,398,175,000	1,418,565,526	△ 20,390,526
費用			
人件費支出	942,414,000	944,030,204	△ 1,616,204
事業費支出	204,814,000	192,085,184	12,728,816
事務費支出	144,490,000	133,552,998	10,937,002
就労支援事業支出	12,200,000	12,554,661	△ 354,661
支払利息支出	4,740,000	4,669,667	70,333
その他の支出	2,053,000	2,274,042	△ 221,042
サービス活動費用計(2)	1,310,711,000	1,289,166,756	21,544,244
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	87,464,000	129,398,770	△ 41,934,770
収入			
施設整備等補助金収入	15,677,000	15,592,600	84,400
施設整備等寄附金収入	200,000	0	200,000
設備資金借入金収入	30,000,000	30,000,000	0
固定資産売却収入	0	132,000	132,000
施設整備等収入計(4)	45,877,000	45,724,600	152,400
支出			
設備資金借入金元金償還支出	67,429,000	67,125,607	303,393
固定資産取得支出	36,676,000	37,573,140	△ 897,140
施設整備等支出計(5)	104,105,000	104,698,747	△ 593,747
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 58,228,000	△ 58,974,147	746,147
その他の活動による収入			
積立資産取崩収入	3,570,000	11,020,740	△ 7,450,740
その他の活動による収入	0	0	0
その他の活動収入計(7)	3,570,000	11,020,740	△ 7,450,740
支出			
積立資産支出	32,806,000	64,621,871	△ 31,815,871
その他の活動支出	0	0	0
その他の活動支出計(8)	32,806,000	64,621,871	△ 31,815,871
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	△ 29,236,000	△ 53,601,131	24,365,131
予備費支出(10)			0
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	0	16,823,492	△ 16,823,492
前期末支払資金残高(12)		496,765,581	△ 496,765,581
当期末支払資金残高(11) + (12)	0	513,589,073	△ 513,589,073

※詳細は、北光福祉会ホームページ内及び社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムなどにおいても公表しております。



社会福祉法人北光福祉会

令和六年度 事業計画の概要

令和六年度の北光福祉会は、次の三点を重点に掲げて事業の実施に当たります。

1 法人組織力の強化

コロナ禍で損なわれた法人全体の協力関係や連携体制を取り戻すために、研修会や委員会活動、共通の行事などを通して交流や親睦の機会を多くし、横のつながりを広げて法人全体の組織力の強化に努めます。

2 法人理念等の見直し

十年前の平成二十六年に作成された現在の理念等を見直し、これからの時代や福祉のあり方にふさわしい内容や表現に変えることとします。

全役職員からアイデアを募って決定します。

3 将来を展望した計画の策定

本年十二月で七十周年を迎えますが、三つの入所施設を中心に大きな事業体になりました。現状の見直しや改善を図り、今後の福祉の動向や地域のニーズを正しく見極め、将来を展望しながら中・長期の計画を立て、それに向かって事業を推進させて行くこととします。

○令和六年評議員・役員

令和六年の役員・評議員は、次のとおりです。よろしくお願いいたします。

《評議員会》

評議員 中川 哲夫
評議員 廣島 賢子
評議員 三田 真美
評議員 宮崎 良公
評議員 三浦 義行
評議員 岡村 宏
評議員 馬場 洋子
評議員 浅利 誠
評議員 高橋 好則(新)

《理事会》

理事長 湯浅 民子
理事 堤 茂樹(業務執行理事)
理事 藤井 康成(業務執行理事)
理事 米内山 邦子
理事 新山 史賢
理事 工藤 克哉
理事 長谷川 光夫
理事 田中 齋
監事 加藤 政雄
監事 飯田 壮一

○会議の開催

令和六年度の主な事業。
定款の規定に沿って評議員会、理事会を開催し、事業の適正な実施に当たってまいります。

○監事監査及び内部監査の実施

年四回の個人預り金と、会計・業務の監査を行い、万全を期してまいります。

内部監査委員による内部監査を実施し、必要な改善を図ってまいります。

○内部会議の開催

理事長、管理職等による経営会議を月一回定例で開催し、経営上の諸課題を協議します。令和六年度は、副園長、副管理者等の出席の機会を設けます。

その他必要な会議を開催し、連携や調整等を行います。

○委員会活動

委員会活動を継続して実施し、役員が意見やアイデアを出し合う機会とします。特に就労関係の事業についての検討を進めます。

○権利擁護・虐待防止

権利擁護・虐待防止規程及び権利擁護委員会規程に沿って、虐待防止に万全を期して行きます。全体を対象にした研修会を実施します。新たに虐待防止マニュアルを整備します。

○苦情対応

法人の苦情対応規程に沿って苦情対応に万全を期します。
各施設・事業所の第三者委員と協力し、恒例となった児童・利用者との個別面談を実施し、思いや要望あるいは問題の早期発見に努めます。

○研修会の実施

法人内研修会を、令和七年三月二十三日に行います。その他、法人全体の研修の機会を持ち、学びと相互交流の機会を確保してまいります。

○会報の発行

「二隅を照らす」夏号と、冬号を発行し、事業活動の報告と、情報提供や啓もうに努めます。

○法人記念誌の作成

昭和二十七年、法人の事業を開始から本年度で満七十年を迎えるところから、歴史を記すことを目的とした記念誌を作成します。

○施設・設備の改修

敷地の確保
ひまわり学園に隣接する土地の確保に向けて、推進に当たります。

◇国道看板の設置

国道242号線の切り替えに伴い、ひまわり学園、法人本部などの看板を移設し、新たに設置します。

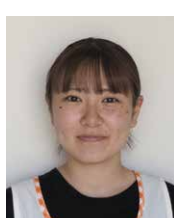
○人事についてのお知らせ

《管理職》

・ひまわり学園施設長 湯浅 民子
千田嘉人施設長が有期限で他機関へ就職し、湯浅民子理事長が兼務でひまわり学園施設長を務めます。
・ひまわり学園副園長 成田朋美
新たに副園長に就任しました。

新採用職員を紹介します。

○北光学園



保育士 藤本 蓮
子どもたちに寄り添える存在となれるよう、常に学び続けていきます。



夜間支援員 内野 晴美
共に支えあい、一緒に成長し、見守っていきたくと思っています。

○ひまわり学園



児童指導員 宇野真太郎
子どもたちと楽しく過ごして、共に成長して行ければと思います。



保育士 熊谷紅葉
ひとり一人に寄り添い子どもたちと一緒に成長していきたいです。



保育士 後藤千陽
子どもたちと元気いっぱい、お互いに成長しながら過ごせたら良いなと思います。

令和六年度の各施設から

子どもたちが自分は大切にされ ていると思えるような施設



北光学園施設長

堤 茂樹

子どもたちは職員からどのように接してほしいと思っているのでしょうか？「話を聴いてほしい」「怒らないでほしい」「一緒に遊んでほしい」……いろいろな答えが返ってくると思いますが、それらに共通する願いは「自分を大切に思っていてほしい。大切にしたい。」ということではないでしょうか。「大切にすること」の反対は「大切にしない」ということです。「大切にしない」とかもしれません。身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトなど子どもに対する虐待は子どもを傷つけ、心身の成長や発達に悪影響を与えます。



小田島さんの山小屋訪問

り、前向きに行動できる」「感情が安定し、穏やかに過ごすことが出来る」「家族や友だちを大切にする」「自己主張ができる」というような特徴があるとされます。

自分で自分を大切に思える力は、逆境においても生きぬく力、折れない心を作る上でも大切なことだと思います。

ご存じのように、子どもには「子どもの権利」があります。子どもを大切にすることとは、「子どもの権利」という観点から見ると、子どもを意志と人格を備えた「権利の主体者」として尊重し接するということです。

子どもの意見を聴き、受け止め、尊重し、丁寧な支援をしていくことが出来れば、真に子どものための施設に近づくことが出来るのではないかと思います。北光学園は「子どもたちが自分は大切にされていると思えるような施設」を目指していきます。

子どもの最善の利益を求めて



ひまわり学園副園長

成田 朋美

今年度から、ひまわり学園副園長に就任いたしました成田朋美と申します。入職して以降、ずっとひまわり学園で保育士として、日々子どもたちのにぎやかな声に囲まれながら、子どもたちとともに過ごしてきました。

私が入職した当時は、入所定員が五十名で、子どもたちは五つのユニットに分かれて生活しており、十人の子どもたちに対して職員一人という環境は、子どもにとっても支援者にとっても、なかなか大変なものでありました。

時代の流れとともに、子どもたちを取り巻く環境も、制度も少しずつ変化し、ひまわり学園においても、平成二十四年にユニットをひとつ増築し、さらに令和五年度からは定員を四十名にして、一つのユニットの人数が六〜七人になったことで、より家庭に近い環境になり、子どもたち一人ひとりに細やかな支援ができるようになりました。幼児期の子どもたちには、発達段階に応じた必要な生活支援を行い、遊びや運動を通して体づくりを行ったり、

地域資源を活用して、社会性の発達を促しています。

学齢期の子どもたちには、就学校との連携を密にして、充実した学校生活を送れるよう支援したり、個々の発達の課題に応じたきめ細やかな支援心がけています。ひまわり学園に入所している子どもたちのほとんどがこの時期にあるため、ひとり一人と向き合う時間を大切にしています。

青年期と言われる高校を卒業した方たちはあまり多くはないですが、在学中から引き続き事業所や施設の見学を行い、体験などを通してながら、成人後のサービスに繋げていく準備を行っています。

どの時期の子どもたちの支援にも共通していることは、安心安全が保たれている環境が大前提にあり、将来に必要な生活スキル・社会スキルを教え、練習し、それを勇気づけて励ますこと、また、子どもの意見が尊重され、願いや思いを反映・実現できるように職員が尽力することだと思っています。

直接支援の立場を離れてもお子どもの最善の利益を考え、保護者やご家族、関係する皆様のお力を借りながら務めさせていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

活動が楽しめるように



向陽園施設長

小林 由美

年々、夏の暑さが厳しく感じますが、お天気が良いと外に出る機会も増え、出かけることが楽しくなっています。利用者の皆さんの口からも、「北見に買い物に行きたい」「温泉に行きたい」「泊まりに行きたい」といった声が多くなるようになってきました。

今年も、利用者の方の日常の生活について、この数年実施できていなかった活動を再開することとしました。

一つ目は、「全体外出」として、活動内容にテーマを持たせた外出を企画し、参加者を募って実施していきます。

既に企画、実施された活動としては、網走果物狩り、北見買い物外出、エスコン野球観戦を行いました。どの外出も、帰ってきた時の皆さんの顔がとても晴れ晴れとしていて、楽しんだ、満足したという気持ちが見て取れました。この後は、秋らしい「グルメ企画」と「紅葉見学」が待っています。

二つ目は、各ホームで行っている活動に加え、各ホーム間の利用者交流や他事業所との交流も含め、利用者皆さんが一つの活動に参加する「全体活動」を、

安定的に取り入れられるように実施していきます。

年齢も個性も幅のある利用者の方々ではありますが、一つのことをみんなで楽しめるような内容や、それぞれの楽しみ方に合わせた参加方法を考えていきます。また、その活動で取り組んだ活動を、保護者の方との行事で力を發揮することがあるかもしれません。

夏祭りやダンスパーティ、クリスマス会などの行事での発表に向けた内容も盛り込み、日頃の成果の発表につなげられたらと考えています。

一様に同じことに取り組む、という事ではなく、一つのことを色々な楽しみ方で楽しむ、その人なりの楽しみ方で楽しめるよう、今年も「日々楽しく面白く」に、より力を入れて行きたいと思っております。



サンサンドームで玉入れ

地域生活支援パオからの お詫びとご報告

地域生活支援パオの各事業所も令和6年度の新たなスタートを切ったのですが、グループホーム燦ホームにおいて、虐待や不適切支援でもって北海道から行政処分を受けるといふ事案が発生したことをご報告いたします。

まずは本誌を通じて、燦ホーム利用者の皆様、ご心配をおかけしたご家族の皆様、ご迷惑をおかけした関係者の皆様に心からお詫びを申し上げます。

具体的内容は、身体的なものが1件、暴言及び威圧的言動などの心理的なものが3件の計4件で、いずれもカッとして行為に及んだり、「しつけ」に名を借りた過度な注意や叱責で、それらを憂いた内部からの通告があつてこれらが顕かになりました。

北海道へ改善報告はすでに提出を終え、現在、パオのみならず法人挙げて、再発防止や改善に向けての取り組みを進めているところです。

燦ホームの利用者はいずれもひまわり学園を退所した人たちで、障害程度区分の平均が4.8と、支援度の高い人が多いのが特徴です。今回の要因には、障害特性上の支援の困難さが招

いた一面もありますが、いかなる理由があれ虐待や不適切支援による権利侵害は許されません。また、このことを他山の石として、各施設・事業所が権利侵害への意識改革に努めていかなければなりません。

法人として、虐待防止委員会の開催、全職員を対象にした緊急調査の実施、内部調査、要因分析、就業規則の改正、マニュアル等の整備、改善に向けての話し合いなどを行い、理事会での審議は、毎回長時間に及びました。

9月には、法人の内部監査委員会による内部視察が予定されています。

10月には、全役職員を対象にした虐待防止研修会が二回に分けて行われます。利用者の意思や人格を尊重し、真に利用者の立場に立った支援を展開するための具体的な学びを、全体で深めていこうとしています。

同時に、地域生活支援にかかる各事業を、パオという大きな組織で管理していることにも問題の一端があるとの反省から、運営組織の改編や人事異動をこの秋に行うことになりました。

具体的なことは、次号でお知らせいたしますが、一部利用者のホーム移動や、活動内容の変更も予定されています。どうかご理解の上、ご協力の程よろしくお願いいたします。

第十回法人内研修会開催 仲間たちとの久々の交流を終えて



北光学園副園長代理

米内山 仁

猛威を振るっていたコロナウイルスも下火となり、感染症第五類の認定を受けたことでいよいよ落ち着いたというイメージに変わり、当法人の利用者や入所児の生活も、徐々に外に向けたものに戻ってきています。

長らく開催を延期してきた法人内研修会でしたが、令和5年度を締めくくるとして、5年ぶり10回目の開催を3月30日に行いました。

法人研修会は例年、主な内容として、午前中は物故者への黙とうから始まり、永年勤続職員の表彰、理事長より法人の年間計画説明や職員への訓示、各事業所からの業務説明が行われ、午後からは実行委員会で企画する研修が2本行われます。

今年度の研修1本目はひまわり学園の千田園長（研修当時）と地域生活支援バオの藤井管理者による海外視察報告、2本目は、ここ数回の研修の目玉として行われていた法人職員全体で行うグループワーク「がやがやタイム」で

す。このがやがやタイムでは、毎回法人全体が共通して取り組めるテーマを基に、「ぞつくばらん」に「事業者や役員、年齢の垣根を超えて」グループワークを行ってきました。

私は北光学園の職員として研修会の実行委員となり、この「がやがやタイム」の企画・進行の担当となりました。総勢7名の担当がいる中で責任者も拝命し、久しぶりの研修ということでも責が肩に押し掛かると同時に、法人内の頼もしい仲間たちと共に取り組むことへの期待感も感じており、自然と企画に対して熱が入りました。

「がやがやタイム」の企画に際しては、5年間も延期した研修会は法人全体の横の繋がりを希薄としてしまった状況を前提に据え、その上で、異業種の職員同士で行うグループワークとして相応しいテーマはどのようなことを検討することとしました。また、短い時間であっても十分な交流と参加者が法人の一員であると感じられるようにし、その結果、職員それぞれが前向きに仕事に取り組めるための内容にすること、これも念頭に置くこととしました。最終的には全事業所が福祉施設として共通して取り組める「虐待防止」に繋がる内容とするために、研修テーマを「明日からの自分にエールを！」というものに決定し

ました。「虐待防止」をテーマの前面に出してしまうと、イメージが邪魔をして委縮した議論になることを担当達は懸念したため、職員の自己肯定感の向上とメンタルヘルスの維持が結果として「虐待防止」につながることが、このテーマ決定の大きな理由となっています。

「がやがやタイム」は20グループほどに分かれて行いましたが、終始、笑顔が絶えない和やかな雰囲気で行われ、法人各事業所や役員、年齢の垣根を越えて、各グループ活発な意見交換が行われました。私は進行役として全体を見渡しておりましたが、どのグループも職員の事業所が違っても、役職や世代が違ってもそれを感じさせず、我々担当の想い描いた議論がそこでは行われていました。まさに担当冥利に尽きるもので、我々の企画が報われた瞬間でもありました。

グループワークの最後には、各グループでテーマに沿って自分たちへのエールとなる「名言」を作ってもらいましたので、その一部を紹介したいと思います。「笑う人（職場）には福来たる」「睡眠十分腹八分」「顔晴ろう（がんばろう）」「字数の関係で全てご紹介できないのは残念ではありますが、どのグループも非常に前向きな気持ちになれる素晴らしい名言を残してくれました。

最後になりますが、この法人研修は異業種の事業所が集う中で、いかに法人全体の連帯感を高められるのかが大きな目的であると私は感じていました。

その中で、職員一人一人が他業種を知ること、自分達の役割の大切さを理解し、他事業所の職員達と触れ合うことで法人の一員である事への自覚が芽生え、それが明日の業務への糧となるものと思っています。その一端を担えたことを誇りに思い、研修及び「がやがやタイム」を成功に導いた全参加職員へは、この場を借りて改めて感謝したいと思えます。

それぞれが導いた「明日からの自分へのエール」を今後の業務に役立てていただけたらと思います。



千田園長の海外視察報告

堀先生を囲んだ研修会

ひまわり学園では、コモンセンスペアレインティング（CSP）を支援の柱として、子どもたちの支援に取り組んでいます。八月には久しぶりに堀先生が来園され、研修会が開かれました。



講師の堀先生



実演する熊谷職員

最初に新任職員が、初級検定に挑みました。今年就職した熊谷職員がベツドで飛び跳ねる子どもを実演し、それに対して参加者が教育法を用いています。子ども役を実演することで、より具体的な状況を理解することができると、実際の場面で教育法を使うことができるようになります。「練習すること」。先生が繰り返し大切なポイントとして教えてくれています。

CSPを用い始めたころは、子どもたちの中には、「職員がまた何か始めた」と言う子もいました。しかし、繰り返し行うことで、子どもたちに変化が見られてきました。

暴力や物損が多く、支援の方針にも苦慮していた子どもがいて、問題が起きるたびに対処する繰り返しが続いていました。堀先生から、「CSPの教育法にある効果的なほめ方に着目し、難しい行動ではなく、褒められる行動に注目して支援してみようか」と助言をいただきました。

担当職員は、すぐに支援の方針を変更し、取り組みを開始しました。するとどうでしょう、暴力や物損がパツと無くなり、手伝いや周囲の助けになるような、褒められる行動が増えたのです。担当職員が根気よく関わり、その子のことを理解していたのと、堀先生の助言がガシツとあった瞬間でした。その子が救われて、関わってきた職員が報われたのです。これは、ほんの一例ですが、他にも多くの子どもが学び、成長して救われています。

最後に先生から「行動は学ばれるもの」つまり、学び直しもできる、と。この言葉を胸に、学び続けて、伝え続け、子どもたちを育てていきたいです。

（文責 宮本芳）

連載コラム 向陽園と私

Fさん兄弟の後見人となって

浄光会常務理事 張江 紀代美

私が向陽園に入所しているFさんご兄弟の成年後見人を担当して、一年が経ちました。

お二人の後見人はお父様がされていましたが、ご高齢となり、体調不良等で対応が困難とのことで、後見人変更の申し立てをされたそうです。

後見人となる人は親族が一般的ですが、最近では身寄りがなく、親族が対応できない等で第三者（弁護士、司法書士、社会福祉士等）が選任されることが増えていきます。家庭裁判所は本人にとって最も適任だと思われる方を選任するとのことで、社会福祉士資格のある私が、Fさん兄弟の後見担当となりました。

後見人の職務は、ご本人の生活に配慮しながら金銭管理や契約等、本人を保護し利益を守る支援をすることです。毎月1回程度、向陽園を訪問し、施設費や小遣い等の支払いをし、ご本人達と会い、担当の職員の方から日頃の様子、心身の状態の変化等の報告を受けます。

ご本人達との意思疎通は、私には難

しいですが、職員の方は、本人の気持ちを理解し、色々配慮して対応しているようです。それは、二人の穏やかな表情から安心して生活しているのが汲み取ることが出来ます。

唯一のご家族であるお父様は、北見で一人暮らしをされています。ご高齢ですので行事には、なかなか来られないようですが、体調が良い時は汽車に乗り、お二人に会いに来てくれます。私は、遠軽駅にお父様を迎えに行き、向陽園までの車内や法人の事務所、色々お話を伺います。

お父様の思い、不安、将来の事、遺言やお墓の話等、他の人が聞いたら、そんなことまで、と思われるかもしれませんが、ご兄弟はお話をするのが難しいので、お父様との会話はとても大切にしています。

最後に、向陽園での後見業務がスムーズにできることに感謝しています。施設長、職員の方々、法人全体の連携が上手くできているからと感じています。そのことは、地域のグループホーム、デイサービス等を運営する事に繋がっているのだと思っています。

今後も障害のある方の生活の場の選択肢が増えていく事を願っています。

夏の三題

ひさしぶりの音楽演奏会

去る8月13日に、「TEAM安国音楽堂」（安国地域を拠点に活動している音楽バンド、代表・保科通子さん）による「夏のえんそうかい」がひまわり学園で開催されました。

ひまわり学園とくれよんの子どもたち、向陽園利用者が参加して、久しぶりの生のバンド演奏をたのしみました。

全員が楽しめるようにと予め曲目を募り、懐かしい曲から最新曲、また、参加者が踊って楽しめるような曲を演奏していただきました。

生の演奏を聴き楽しそうに手拍子をする子や、リズムに乗って身体を動かす



子、「この歌知ってる！」と教えてくれる子も居て、とても楽しい時間を過ごすことができました。【写真】聴くだけでなく、職員がスベ

シャルゲストとして子どもたちと一緒に参加して、歌を歌ったり、踊ったりと一緒に楽しみながら演奏を聴いていたのがとても印象に残っています。

TEAM安国音楽堂の皆様、ひさしぶりのたのしい演奏会をありがとうございました。

北見トヨペットと社員からのプレゼント



北見トヨペット株式会社では、平

成18年からマッチングギフトを導入し、社会貢献を行っています。これは、北見トヨペットに入庫の12ヶ月点検と車検、車1台に対して、社員と会社が寄付を行い、その浄財を福祉施設や災害などに寄付をして役立てるものです。

当法人にも、平成26年から毎年、北

光学園、向陽園、ひまわり学園、パオなどに品物の寄贈をいただいています。いただく品物は、トヨペット側からの品物や、カタログから選ばせていただいた品々です。

今年北光学園では、消毒液、タオル、ティッシュやトイレトペーパー等。向陽園では、血圧計やゴム手袋、お風呂用滑り止めマット、つめ用ニツパー等。法人では消毒液、ティッシュやトイレトペーパーなど、こまごまとした衛生用品や日用品をお願いし、過日、届けていただきました。【写真】毎年、会社と社員の皆さまの厚志に感謝いたします。法人内施設・事業所で使用させていただきます。

ハスカップの手入れ

一年前、遠軽の吉川博美さんから寄贈いただいた植えたハスカップの苗木。まだ小さいながら、初夏には実を着けていくらか収穫でき、ジャムなどに加工した職員もいます。

過日、遊友ほたる、サン・コロネ、ひまわり学園の利用者と子どもたちが一緒になって、石拾い、パークチップを木の根元に敷く作業を行いました。

役員さんもブラシカッター持参で伸びた雑草の草刈りに参加してくれ、み

んなで汗を流した貴重なときでした。作業の後の一服に、ひまわり学園の名雪栄養士がお茶とアイスを用意してくれました。【写真】



ひまわり学園の南側に気持ちよく広がるこの土地は、農地転用の手続き中で、未だ法人所有とはなっていません。敷地の狭さが悩みの種だった学園にとっては、多年の念願の土地です。

移転になったなら、子どもたちがいきり遊べるグラウンドを造り、作業棟を建て、ハスカップを増やし、畑にはあれとこれを植えて、と今からあれこれ夢を描いています。

御芳志の御礼

令和五年十二月一日から、令和六年六月三十日までの間に、次の多くの皆さまから法人事業のため、または施設などに入所あるいは利用している子どもや利用者のために役立ててほしいとの趣旨でご芳志をいただきました。

寄付金

《北光福祉会》
遠軽信用金庫 六車潔 湯浅民子
匿名希望3件(遠軽町) 野田勲子
(音更町) 吉田亮介(札幌市) 熱田洋子(川越市)

《北光学園》

米内山邦子 服部憲尚 橋本政司
(有)遠軽清掃社 生田原老人クラブ
遠軽町共同募金委員会・遠軽町社会福祉協議会・遠軽青年会議所 遠軽信用金庫生田原支店 埴山和成 北光学園後援会(遠軽町) 羽賀商店(北見市) 網走市女性保護の会(網走市) 松尾博子(小樽市) 北海道共同募金会 武田恭明(札幌市) 横瀬兼二(東京都) 匿名希望

合計 1,111,000円

《ひまわり学園》

苗田建設(株) 遠軽ロータリークラブ (株)工藤電機 (有)遠軽清掃社 (有)ウエノ 遠軽町共同募金会 遠軽町社会福祉協議会 北海道共同募金会 湯浅民子 佐藤恵子 加藤政雄 新山史賢 (有)大湧工業 遠軽信用金庫生田原支店 山田雄輝 渡部正騎 長谷川光夫 安国中学校特別支援学級担任一同 アート美容室(以上遠軽町) 飯田壮一 野田坂正法 (株)東伸(以上北見市)

合計 240,000円

《向陽園》

加藤政雄 アート美容室 遠軽清掃社 小野寺映子 湯浅民子 新山史賢(遠軽町) 三品勲(湧別町) 尾藤照明(北見市) 後藤きよみ(十幌町)

合計 450,000円

《燎ホーム》

阿部豊子(遠軽町) 星屋泰賢(士幌町)

合計 150,000円

《センターもね》

湯浅民子(遠軽町)

合計 10,000円

《遊友やすく》

小野寺映子(遠軽町)

合計 10,000円

《遊友ほたる》

小野寺映子

合計 5,000円

寄贈品・ボランティア

《北光福祉会》

ネットトヨタ遠軽店 匿名希望 吉川博美(遠軽町) 田中齋(弟子屈町) 福祉ファミリー 板垣洋会 計士事務所(札幌市)

《北光学園》

徳貞薫 自衛隊曹友会 イト電商 事(株) 田中メガネ店 救世軍遠軽小隊 ノルディックファーム 佐藤由美子 米内山仁 谷津一彦 高橋豊恵 原田典朗 佐々木優衣 本田学 横山薫 藤岡照久 橋本さとみ 堤茂樹 花岡美和 木村よしのり 高嶋弘三郎 西原勝義 榎めぐみ 椎名美紀 大泉勝義 吉田久子 小山田豊 タニシマ 青木眞須美 窪内忠喜 池田勉 亀田商店(以上遠軽町) 森良子 北海道コカコーラボトリング

(株) 北見藤高等学校 瀬川心 ゼビオ北見店(福) 北海道協同募金会 ロコソラーレ 清水計子 ギョーザの王将イオン北見店 中平祥司 北見洋菓子協会 酒井三恵 萩野芽衣 土田浩子 今野かずえ 加藤神也 長谷川育子 カープス 荻洲博之 松尾和康(以上北見市) 田中理恵子(訓子府町) 小田島護 カープス(網走市) (株)ながさわ(美幌町) こまつや商店 川畑早苗 大崎邦子 近藤征

一 板東守(湧別町) 福井紗耶佳 見張哲也 小林則子(紋別市) 及川詩音 岡部晃一(釧路市) 松尾博子(小樽市) (株)セコマ 北海道漁業協同組合連合会 北海道テレビ放送(株) フレッドカフマン (株)ゼンイレブンジャパン ジェリーズ ポップコーン 北海道遊技事業協同組合 松田八郎 荒木汪子(札幌市) (株)ホクビー(石狩市) 荒木正和(江別市) 佐藤敬子(豊富町) 山本秀勝 山内和夫 上村幸子 渡辺力(旭川市) 平田実(深川市) 佐藤善一(増毛町) 広尾町北方圏交流振興会(広尾町) 遠藤勝志(幕別町) (株)ブレッシングス 横瀬兼二(公財) 毎日新聞東京社会事業団 (株)ファーストリテイリング 久保友樹毅 山崎秀樹 (株)BACKSTAGE 門司一徹 三和商事(株) 内藤彰信(東京都) 実祝プランニング(伊丹市) 大橋景子(岐阜県羽島市) ほつともっと(福岡市) (株)カプセルZ(藤沢市) 日本鏡餅組合(新潟市) ワールドメイト(静岡県伊豆の国市) (株)みずほ(さいたま市) グランマchie(長野県飯島町) 文屋(長野県小布施町) 岩本光弘(熊本市) 田北千加子(岸和田市) ボランティア

《ひまわり学園》

フレッド・カフマン(札幌市) (有)大湧工業 茶木建設(株) 細野石油(株) 小山田和美 小関明美 イト電商事(株) セコマ佐藤商店 小西商店 ひまわり学園分校 中部 田中眼鏡店 北洋銀行遠軽支店 サン・コロネ 遠軽自衛隊曹友会 ネットトヨタ北見(株)遠軽店 秦野商店 細木亜由美 小山広明 湯浅民子 宇野和子 青野恵美子(以上遠軽町) 広島真美 伊藤寿一(以上紋別市) 森谷権三 北海道コカコーラボトリング 会田勝男 布宮奈美江 (株)東伸 野田坂正法(以上北見市) 深山美枝子(湧別町) 坂本美幸(斜里町) 新鞍さゆり(美幌町) 中井雅幸(大空町) 柿崎有美 森谷可奈子 松本美春(旭川市) (株)セコマ 村敬紀 日清医療食品(株) (札幌市) 武井雅映(さいたま市) ボランティア

保科浩則 保科通子 木下敬裕 鏡知一 鏡栄子 加藤政雄 長谷川光夫(遠軽町) 井田みのり 飯田壮一(北見市)

《向陽園》

大湧工業(有) 細野石油(株) (株)安全 (株)イトデン商事 清水直人 谷川愛生 佐藤富枝 縄陸博 浅井宏實 黒瀧久子 工藤克哉 小林

幾子(遠軽町) 遠藤芳枝(佐呂間町) 飯田壮一 尾藤照明 堤忠男(北見市) 島田和男 滝口貞子 水野知一郎 角田摩美(紋別市) 斎藤久恵(新得町) 馬場洋子(訓子府町) 菅野智恵子(津別町) 西澤利秀(小清水町) 後藤正弘(士幌町) 鍋田正勝 須藤利昭(札幌市) 三澤勝(東神楽町) 大澤潤子(剣淵町) 本田和則(釧路市) 佐々木智子(音更町) 永田叙子(東京都)

内野郁子 佐藤昌生 長岡春三 村雲美恵 樋口順子 後藤正則 松尾淳司 今井美香 野村幸子 長岡沙里奈 堂前カズ子 北岡優平 清水直人(遠軽町) 金内ヨシエ(湧別町) 阿部美代子 川森修二 折川重夫(北見市) 岩本静夫(札幌市) 白川陽子(函館市) 大場玲子(さいたま市)

林明男 坂東耕自 工藤克哉 横井サツ子 温盛幸治 大崎喜代志 坂本宣子 梶田伸男 伊藤美千子 粕谷さつ子 山岸文夫 浅井宏實 佐藤亘 藤岡照久 大累悟 くらし ネットLink(遠軽町) **《遊友ほたる》** 丸山信二 三瓶(遠軽町) 鈴木美智子 船橋寿文(湧別町)

《燦ホーム》

我妻香苗 千葉美佐世 井之口千栄 有倉リヨ子 泉秀一 中津一雄 福田進 西原弘 仲野スミ子 藤井康成 秋保勝巳(遠軽町) 田中由雄 土門きみえ(佐呂間町) 高橋忍 楠目広志(美幌町) 今本勲 西田光子 森田(北見市) 廣島真美(紋別市) 森岡陽子(滝上町) 植野博雄(網走市) 森田孝俊 初江(別海町) 加藤政伸(苫小牧市) 高橋捷史・マツ子(札幌市)

《センターもね》

廣島真美(紋別市)

《サン・コロネ》

片山昭雄 片平勝美 徳田昭子(遠軽町)

《ぱれっと遠軽》

安村まり子 横井サツ子 鐘ヶ江美由紀(遠軽町)

《くれよん》

國松大輔 吉田万畝 山口貴宏 小山田和美(遠軽町) 國井龍一(佐呂間町)

各後援会だより

北光学園後援会

令和五年十二月一日から、令和六年六月三十日までの間に、北光学園後援会に、次の皆さまから会費・寄付金等のご芳志をいただきました。ご協力に感謝し、誌面を通じて厚くお礼を申し上げます。(敬称略・順不同)

高木新聞店 岡部香 青山葉子 堤茂樹 上村美和子 米内山寛 章 太田理 橋本さとみ 山下達也 米内山邦子 米内山仁 安藤達 安藤いづみ 河本千香 山口弘子 早川友美子 丸山杏菜 岡田栄子 大井烈 佐藤由美子(遠軽町) 榎啓行 中澤義之(札幌市) 合計 175,000円

ひまわりの里後援会

新型コロナウイルスでしばらく活動の途絶えていたひまわりの里後援会ですが、去る五月二十六日に、五年ぶりになるひまわりの里後援会総会がひまわり学園で開かれ、馬場洋子会長をはじめとしたなつかしい顔が揃いました。

令和五年度の決算の状況は次のとおりですので、感謝を込めて報告させていただきます。

ひまわり学園配管更新工事費用として500万円の助成を予定していましたが、国庫補助金が不採択で工事が実施できず、助成はなされませんでした。

令和五年度決算報告

会費・寄付金等の収入

1,836,000円

事業収入(切手売り捌きほか)

379,281円

前年度繰越金

12,999,983円

支出

22,348円

差引合計額(次年度繰越金)

15,192,916円

令和五年十二月一日から、令和六年六月三十日までの間に、ひまわりの里後援会に次の皆さまから会費・寄付金、書き損じはがきなどのご協力をお寄せいただきました。ご協力に感謝し、誌面を通じて心からお礼を申し上げます。(敬称略・順不同)

湯浅民子 松尾淳司 大杉 潔 大柳不二夫 佐藤マサ子 細木亜由美 今井百里子 千田嘉人 名雪美加 大神田佳代 佐藤光 森本麗子 佐藤直美 遠軽信用金庫生田原支店 工藤克哉 ダスキン遠軽 イト電商事株 旭川

トヨタ自動車 (株)笠井家具店 光 紀(株) 東海林不動産(株) (有)ウエノ 小野圓 (株)渡辺組 苗田建設(株) 早川憲三 (株)工藤電機 細野石油(株) 栄管工業(有) 瀧本皮膚科クリニック ネットトヨタ北見(株)遠軽店 縄陸博 遠軽通運(株) 日新工業(株) (株)遠軽新聞社 (株)菊地精肉店 山川悟 成田朋美 佐藤富枝 温森幸治 小林幾子 伊藤美千子 六車潔 黒瀧久子 浅井宏實 梶田伸男 我妻香苗 大神田佳代 谷千洋 千葉美佐世 本田典子(以上遠軽町) 岩崎久衛 佐藤宏士 尾藤照明 井関利男 飯田壮一 長谷川善美 (株)東伸 田岡久治(以上北見市) 島田和男 廣島真美 白田和博(紋別市) 三品勲 岳上光雄 松浦敬貴 岳上光雄 大口眞一郎 大口侑希子(湧別町) 野田勅子(音更町) 佐藤秀夫(大空町) 板東正昭(南幌町) HJK株式会社(東川) 遠藤正治(佐呂間町) 成瀬俊悦(雄武町) 森岡陽子(滝上町) 菱木富美子(斜里町) 楠目広志(美幌町) 馬場洋子(訓子府町) 星屋泰賢(士幌町) 菅野智恵子(津別町) 菜原智子(函館市) 吉田さやか 日清医療食品(株) 佳総合設計室 岩本静夫(札幌市) 長田わか子 橋京子(東京都)

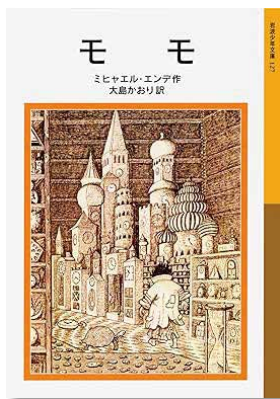
合計 1,278,000円



寄贈された砂漠のバラ

お薦めの本

『モモ』 ミハエル・エンデ作 大島かおり訳



私は、小さいときから本が好きでした。寝るときは枕元に本をいっぱい積んで寝ます。その習慣はこの歳になっても変わりません。

教師になり、子どもたちに国語の時間や時間が取れると、長いお話ですが読み聞かせをした本を紹介します。また、孫に読んでごらんとプレゼントした本でもあります。

大きな都会の街はずれに、小さな女の子が住み着きました。『モモ』という女の子です。みんなは、何かがあると「モモのところへ行ってごらん!」というのです。どうしてでしょうか？モモは頭が良かったから。魔法が使えるから。いいえちがいます。

小さなモモにできたこと、それはほかでありません。相手の話を聞くことでした。彼女は、ただじっと座って、聞いているだけです。その大きな目は、相手をじっと見つめています。すると引っ込み思案の人には、勇気が出ます。悩みのある人には、勇気と明るさがわいてくるのです。

そんな頃、時間どろぼうが現れます。・・・1973年に創刊された『モモ』大人気作です。このコーナーで、何度も本の紹介をしましたが、欠かせない本です。ゆっくりじっくりと読んでみてください。

(理事 新山 史賢 記)

(お詫び、前号のお薦めの本は「はじめてであう安野光雅」の間違いでした。作者名共に訂正させていただきます。編集部)

お悔み

グループホームゆめいく利用者

折川 清さんが、令和6年6月15日に、81歳でご逝去されました。

いつも明るく、楽しげだった折川さんの在りし日を偲んで心からご冥福をお祈りいたします。



社会福祉法人 北光福祉会

〒099-0622

北海道紋別郡遠軽町生田原安国302番地7

☎0158 (46) 2120・FAX 0158 (46) 2080

H P : <http://www.hokko-fukushi.or.jp/office/>

E-mail : office@hokko-fukushi.or.jp

- 児童養護施設 北光学園 ☎0158-45-2233・FAX45-2041
地域小規模児童養護施設 きずなホーム ☎0158-45-2206
- 児童家庭支援センター 子ども家庭支援センターオホーツク ☎0158-45-3211
- 障害児入所施設 ひまわり学園 ☎0158-46-2020・FAX46-2080
- 障害者支援施設 向陽園 ☎0158-46-2525・FAX46-2277
- 地域生活支援事務所 パオ ☎0158-46-2120・FAX46-2080
パオ遠軽 ☎0158-42-3811・FAX 46-3384
- 共同生活援助事業 ゆめいく (7ヶ所) 燦ホーム (8ヶ所)
- 生活介護事業所
遊友やすくに ☎0158-46-2277 遊友えんがる ☎0158-42-3389
センターもね ☎0158-42-3720 スペースもね ☎0158-46-2120
- 就労継続支援B型事業所
遊友ほたる ☎0158-46-2460 サン・コロネ ☎0158-46-7077
- 児童発達支援・放課後等デイ サービス ☎01586-8-7300
くれよん ☎0158-46-2020 めるくる ☎0158-46-7510
- 居宅介護事業所 ぱれっと遠軽 ☎0158-42-3811
- 相談支援事業 ま〜ぶる ☎0158-46-3383

編集・発行：社会福祉法人 北光福祉会 理事長 湯浅 民子

あとがき

夏号は7月か8月の夏の盛りに発行されていたのが、今年は9月の初秋にずれこんでしまいました。5月の連休明け、新年度が本格的なスタートを切った矢先に、9ページに記載の事態が発生し、その対応や対策に追われ、気が付いたら9月になっていました。

燦ホームは全員が児童施設ひまわり学園を退所した人たちです。平成の中頃、20歳を過ぎた「過齡児」と言われた人がひまわり学園に滞留していました。いつまでも子どもの扱いをするのは、人権侵害に等しいことでした。

地域に居場所を確保するグループホームは、その人たちにとって大きな光明でもあったのです。自閉症を併せもつ障害程度の重い人もいましたが、少人数、自由な空間、静けさ、プライバシーの保障など、コミュニケーションの苦手な彼らには最適の住まいと言えたのでした。しかし、ときの流れとともに症状の変化をきたす利用者もでてきて、それまでの生活の均衡が崩れたりします。それは自然なことであり、誰のせいでもないのですが、ホームという生活の場所では、大きな問題になってしまうのです。

打開策として業務改善を図ろうと、省力化や効率化を検討するのですが、分散した住まいと設備、それぞれに用意される食事、冬の除雪、それぞれのスタッフの配置……。特色であったはずのそれらが、ことごとく壁として立ちはだかるのです。何よりの問題は、入所施設に比べて運営費が安く抑えられていることでしょう。

グループホームは彼らの理想とはなり得ないのか？ここにきて考え込んでいます。

けれども多くの入居者は、慣れ親しんだホームの生活を楽しんでいる。その信頼と負託に応えなければ……。

試行錯誤する日々が続きます。 (湯浅記)